

中田かわら版 2 月号

～中田地区の地域活動をお知らせします～

発行：中田地区経営委員会

協力：中田連合自治会 泉区役所

制作：中田かわら版制作編集委員会

横浜市踊場地域ケアプラザ

■この人に会いたい<74>

90歳、なあと、これからさ!!

「中田かわら版」制作編集委員会委員長

宮田 貞夫さん (89 歳)



宮田さんは今までに 37 人の「この人に会いたい」を書いてきました。しかしながらご自身が書かれることには強く固辞されていきました。今回は「中田かわら版」が 200 号を迎える事で、編集委員全員の願いを受けてくれる運びとなりました。いざ原稿をとペンを取ってみたものの、僅か 1 ページでは尊敬と賞賛の語句を並べるだけで紙面が一杯になってしまうことに気付きました。数々の実績を残しつつ、今もなお精力的に活動をしている宮田さんの主要な部分を紹介させていただきます。

1934 年 横浜市鶴見区で出生。1953 年 毎日新聞本社へ入社。印刷・写真製版部から学生新聞記者へ。1990 年 退職と同時に(株)モリサワに入社。フォント(書体)開発に従事。1995 年 退社。1971 年から地域でスポーツ(体育指導委員)、歴史、福祉、環境などで活動しています。

1975 年 市立葛野小学校の校章を制作。1980 年 市立汲沢中学校の校歌を作詞。以外と知られていないのが下記 5 誌は創刊号から携わり、今も主幹であつたり表紙も体裁も殆ど変わることなく、長いもので 50 年前から継続しているのがあります。

◎「ふるさと中田」1977 年 中田連合自治会 10 周年記念誌、現在 5 号 ◎「郷土いずみ」1995 年 「泉区歴史の会」会報 現在 29 号 ◎「あやめ」1997 年 泉区老人クラブ連合会会報 ◎「中田かわら版」2007 年 地域広報紙 現在 200 号 ◎「泉区ボランティアネットワーク通信」現在 31 号。この他に創刊号関連として「とつても泉」「泉区・介護と私たちの記録」以上は泉区依頼。「お宮の森のガキ大将」中田ボーイスカウト 25 周年記念誌、「変遷の譜」中田社協 20 周年記念誌など。

また、宮田さんは中田の歴史や遺跡などにも、足で調べ写真を撮りながら書き上げています。

■デイサービス(母の思い出)

<宮田さんの詩を紹介します>

「歷程」より抜粋 2003・4・29 宮田貞夫作

母が嫌がったデイサービスを
初めてすすめたとき

「デンサービスって何だい」と
なんども聞き返した母

(中略)

まあいいさ でも頼むから

一回だけ行って欲しいオレも行ってみたい!

冬がきて 赤いマフラーを首に巻き

春がきて香水を耳染つけ

夏がきて髪を梳かして逝った母

○「中田の歴史記念物」 庚申塔、山神社、双頭道祖神、中田寺の今昔、御霊神社と鎌倉権五郎景政、馬頭観世音など 10 回連載。○「わが町なかだの今、むかし」(上、中、下) ○中田創生の 3 偉人「宮本 湊(いたる)・香川隆法、奥津喬次郎」 ○「村岡川」か「宇田川」か。村岡川の 12 橋について(村岡川の名称復活を望む)。○2015 年 エッセイ集「歷程」(こころの中の中田 50 年) 上梓。この他にも新聞、雑誌など多くの投稿が採用され掲載されています。

趣味は映画、演劇、音楽、レタリング、カラオケなど幅広く、しらゆりコーラスグループでも活躍中。人生 100 歳時代を象徴するかのよう、昨年 11 月には息子さんの住むアメリカへも行ってきました。軟式野球とソフトボールで鍛えた脚で愛用の自転車に跨り今日も中田の町を跳び回っています。

(松本 正)

「中田かわら版」200 号の軌跡（歩み）

<編集委員歴伝>

生田純也、伊藤 誠、小薬昌夫、宮田貞夫、木下良江、奥津栄一、池上 毅、長谷川公夫、井上昌司、市川栄二、山木重樹、葛西健一、佐々木弘美、松本 正、小島敏子、嶋 宏之、田中 進、松本純子、河内満明、鈴木賀津彦。延べ 20 名

<この人に会いたい、最初の 10 人>

現在まで 74 人が登場。最初の 1 番から 10 人はどういう人が選ばれていたのでしょうか。平成 23 年（2011 年）3 月 23 日、第 46 号から掲載。

望月 榮（中田連合会長）、今田 勝（ジャズピアニスト）、雷門助六（落語家）、玄蕃晶子（アスリート）、丹生谷佳恵（ピアニスト）、小島貞雄（郷土歴史家）、小澤明夫（歴史研究家）、川名良之（匠・古民家模型作り）、宮本忠直（御霊神社宮司・歴史家）、沼田基彦（中田老人クラブ会長）。

<歴史建造物・遺跡など>

地形的には狭い中田だが古い歴史が多数残されている。御霊神社の創建は約 800 年前。中田の領主・石巻康敬が中田寺を開基したのが慶長 18 年（1612 年）、約 410 年前のこと。庚申塔や馬頭観音など至る所に点在している珍しい土地柄である。平成 30 年 9 月（136 号）から 10 回連載された。

出羽三山供養塔、山神社、中田のサイト焼き、馬頭観世音、庚申塔について、庚申塔の由来、双頭道祖神、大山道、「中田寺のいま・昔」、御霊神社と鎌倉権五郎景政。わが町「中田の今、むかし」（上）（中）（下）。など。

<踊場の猫シリーズ>

この猫シリーズは 9 回続いたが思い出の詰まった企画だった。投稿者が東京、戸塚、熊本からも寄せられ、愛猫家がいかに多いかが分かった。「トラ猫の回想」（常井正憲）、「猫を愛した作家たち」、「猫の恩返し」、「猫ひとり」（古賀広明）、「猫の恩返し」、「三毛猫チーの思い出」（吉本昌子）・「吾輩の死亡通知」（篠崎千代子）、「私と姉妹猫」（古賀広明）、「猫の言い分」（常井正憲）、「猫とキウリ」、「黒猫モズクとの縁」（渡辺 勉）。※括弧の氏名は中田以外の投稿者。

<イベントの数々>

サマーフェスティバル（最初は「さよなら夏休みの集い」）、子ども水泳教室、新春健康マラソン、文化祭、敬老会、中田シニアクラブ連合福祉大会、さくらまつり、中田スポーツ大会（大運動会）、学校関係など。

<「かわら版」の存在価値とは>

泉区内でもこのような性格を持った会報は少ない。広範な内容を発信しているユニークな紙面で地域文化の発展、向上に寄与していきたいと思っている。（宮田貞夫）

編集後記

コロナがようやく落ち着き、今年こそ良い年に～と願って迎えた新年。

「能登半島地震」のニュースにテレビを食い入るように見ながら、不安に包まれた日本全土。他人事ではない・・・明日は何が起こるかわからない。そして一日一日の今を大切に生きていこうと・・・改めて思った新年でした。
(S・松本)

◎発行：中田地区経営委員会「かわら版」制作編集委員会

委員長 宮田貞夫 編集長 松本 正

編集委員；山木重樹、小島敏子、田中 進、河内満明、松本純子、鈴木賀津彦、嶋 宏之